

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひまわり
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	大阪府
記入者名 (管理者)	小山 素子
記入日	平成 21 年 8 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	環境が変わっても一人ひとり、その人らしく生活が出来るように理念を掲げ、対応に努めています。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝礼時、夜勤者からの引継ぎ前に職員で、理念を復唱することで共有を図り、実践に向けた取り組みが継続出来るようにしています。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	毎月ひまわり便りを家族、運営推進会議構成員、介護相談員や近隣住民宅へ郵送や利用者と共にポストへ配布し、グループホームひまわりを理解して頂けるように継続しています。	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	職員と利用者との散歩兼地域パトロール時には、地域の行き交う方に積極的に挨拶をしており、地域の行事参加時には、気軽に立ち寄っていただくよう声掛けをしています。また、近隣の方々が家庭菜園で作った野菜をそれぞれ持ってきて頂いております。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会の行事には、積極的に職員と利用者全員で参加しており、地域の役員の方々の配慮により数年の間に顔馴染みの関係ができてきています。また、老人会にも、ホーム長と新規入所者を含め数名が会員となっており、昨年より若年性の方も快く入会させて頂き、定例会等の行事には利用者の方それぞれ生き生きとした表情で参加され、楽しい時間を過ごす事ができております。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域防犯パトロールへ参加し防犯活動や草抜き、年末警備等に参加をしており、運営推進会議等でホームができる役割を話し合い地域の方の協力を得ながら参加の場を考え取り組むようにしております。</p>	<p>○</p> <p>地域の独居の高齢者の方々との交流を考えており、自治会活動としても同様な事を検討されているためホームで出来る事を担っていけるように今後も働きかけていきたい。</p>
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>各評価を受け、改善出来る事は話し合い実行できるように努めております。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価の結果を利用者、御家族、運営推進会議構成員、介護相談員へ報告をしており、推進会議ではサービスの向上へつながるように意見を頂くように努めています。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター職員は推進会議へ参加して頂き、その時々報告をもとに意見を頂くようにしています。また、転居希望者の相談から市への働き等の協力を得て、サービスの質や向上に取り組んでいます。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員が精度を理解出来るように職員会議等で話し合い学習しています。利用者が必要とする制度は、活用しています。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し学習するようしており、不定期ではあるが、虐待防止マニュアルを活用し会議等で周知徹底に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>出来る範囲で不安や疑問点を取り除くように詳細に説明し理解及び納得して頂けるように努めています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内ではコミュニケーションの場を作り、介護相談員や地域の方との交流を通し、利用者の意見や気持ちを把握するようにしており、内容により運営に反映できるように努めています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のひまわり便りや月末の行事と予定表に利用者の声や写真、また、コメントを入れ、生活状況等理解して頂けるようにしており、面会時には、状態報告と小遣い金、記帳ノート、レク費等確認して頂き了解印を頂くことを継続しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に設置の意見箱は活用されていませんが、電話や面会時に状態報告しながら気軽に意見等出しやすいように対応しており、内容により会議やカンファレンス等で話合うようにしています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝のミーティングや会議等で、職員の意見を聞き、出来る範囲で反映できるように継続し努めています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態や状況に応じて、出来る範囲で人数を調整し臨機応変に対応するように継続しています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を最小限にするように努めており、職員が代わる場合は、円滑に仕事ができるように利用者の情報や業務内容等詳細の引継ぎをすることで、利用者へのダメージを防ぐようにしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホームの内容に関わる研修は、随時参加出来るように継続し努めています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区によるグループホーム連絡会議が合同会議を含め年4回あり、事前にテーマを決めたり、情報交換や意見交換を通してサービスの向上に努めています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>会議等の延長で、個々の抱えている事等雑談を通し、ストレス解消や問題解決を図るように継続しています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修会や、勉強会の参加への声かけを継続しており、資格取得に対し、手当で支給等で向上心を持って勤務できるように努めています。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族と連携をとりながら状態把握し、傾聴に努め見学等でホームの生活状態を説明し、利用者と短時間でも一緒に時間を過ごすことで、在宅生活から安心して移行できるようにしており、受容から不安解消に努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者や家族から困っている事、不安、希望、意向等を聞きこれまでの生活暦を含め受容するように努め継続しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から生活等について、情報を得るようにしており、必要に応じカンファレンスを繰り返し、職員間の連携を図りながら納得して頂けるように対応に努め継続しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に至るまでの説明や面談、空き部屋がある場合は、希望による体験入所も受け入れており、見学等で時間をとり質問や不安の解消に努めています。また、希望等を聞き徐々に慣れて頂くように対応を継続しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活から利用者の身体・精神、趣味、特技、性格等を把握した上で、喜怒哀楽を共にしその方に応じた対応に努め継続しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の状態観察から変化時等把握したことを家族の面会や電話連絡等で支援の確認をしており、必要により家族の協力を得られるような関係の構築に努めており継続しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人から情報を得て、より良い関係の継続に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生活の中で大切にしてきたことや、交友は、家族の協力も得ながら面会等継続出来るようにしています。新しい環境と地域の中でも交流の場を増やし、馴染みの場所や関係作りができるように支援に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各利用者のADLの差や理解力の差はありますが、互いに少しでも理解し合いながら生活できる様に、説明や話合いの場を設定するようにしており継続しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者や家族の意向を確認しながら、必要により関係を継続するように努めています。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話時や個別に時間をとり、ゆっくり傾聴や必要によりカンファレンスの開催を繰り返しながら対応しており継続しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の見学や面談等で個人情報を把握するようにしています。必要により入所前に自宅訪問等で生活状態、また、居宅担当ケアマネからも情報を得るようにしており継続しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察から個人情報を得て、変化等は職員の引継ぎや申し送り、連絡帳確認の徹底、また、カンファレンスを開催し状態把握に努めており継続しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしい生活をする上での課題に関しては、本人や身近な家族また、在宅での担当ケアマネと連絡を取りながら情報を得て、ケースカンファレンスを開催し話し合いの内容からケアプランへつなげるように継続しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	観察から、変化が生じた場合、かかりつけ医や家族へ情報提供し、内容により本人や家族同席でケースカンファレンスの開催を繰り返し、介護計画の見直しをするように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常の観察を通し、気づきや対応等個人日誌に記録し、連絡帳の活用で連携をとるようにしており、必要時ケースカンファレンスを開催しケアプランへつなげるように継続しています。</p>	
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族からの要望によりグループホームが出来ることは、検討の上、柔軟な対応に努めるようにしています。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>必要により民生委員やボランティアの協力を受けており、警察や消防署等からは、巡回や防災行事等で協力を得ながら支援を継続しています。</p>	<p>○ 今後も文化、教育機関等とより良い関係が構築できるように働きかけていきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人の意向や必要性により、地域のケアマネや他の事業者と連絡をとり、情報交換等に努め必要な支援が出来る様に努めています。</p>	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議等や利用者の状態により必要に応じて、ホームの情報提供と地域包括支援センターで得ている情報を共有するように努めており継続しています。</p>	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医と密な連携をとりながら利用者、家族の希望に応じて治療が出来るように支援をしております。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>月1回のかかり付け医への通院受診時、状態や変化等報告しており、必要により受診の回数を増やしたり、専門医への受診につなげるように努め継続しています。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホームの非常勤の地域看護師が週1回来荘し、健康管理や相談、助言等の対応をしており、医療連携体制を確保しており、継続しています。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>かかりつけ医に相談の上、本人家族の意思を尊重しホーム対応可能であれば受け入れ体制を整備し、退院後はDrや地域看護師と連携をとりながら対応するように努め継続しています。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>病院、家族、看護師、職員との連携から看取りの指針マニュアルを作成し、終末ケアに対する方針を決めており対応できるように努め継続しています。</p>	<p>○ 勉強会等で話し合い、必要により見直しを繰り返し職員全員で共有出来る様にして行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホームでできる事を話し合い独自の看取りの指針マニュアルを作成し、かかりつけ医にも協力を得られるようにしており継続しています。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の意思と家族の協力等を得ながら、希望される生活が可能か検討を繰り返し、必要により情報交換等で関係機関と連携をとりながら本人が納得されるような対応に努めており継続しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を含め、言葉づかい等会議で学習し周知徹底に努めており継続しています。	
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	マンツーマンで個別対応しながら本人が自由に思いや希望等表出したり、自己決定が出来る様な関わり方をするように努めており、継続しています。	
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその時の状態観察や個々の性格、癖等理解した上で、声かけや誘導等臨機応変に対応しており、必要により声かけや時差対応等工夫し、希望に添える様な支援を継続しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自由におしゃれを楽しめるようにしており、地域の3箇所の理美容院を希望により利用したり、個別支援に努めています。	
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当番を決めているため、メニュー書きからコミュニケーションをとり職員と一緒に調理や盛り付け、配膳等しており、食べるまでの楽しみも味わって頂けるように支援を継続しています。	
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体面ではDrへ相談し、本人の希望を聞くように努め支援の継続をしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	カンファレンスで援助方針を決定し、しており、必要により状態把握のために観察表を作成し個人の排泄パターンから適切な支援を継続しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本週3～4回夜間入浴と季節によりシャワーが可能であり、必要により随時シャワー浴の支援を継続しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温や個人の体調の状態において安眠できるように支援しており、夏場は、アイスノンを使用したり、夜間眠れない方には、水分補給や傾聴、対話等に努め継続しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域老人会の会員である利用者は、地域の方の協力を得て月例会や日帰りバスツアーに参加されたり、ホーム内での個々に出来る役割を担い自信を持つことが出来るように支援を継続しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理の方と希望によりホーム預かりの方がおり、外出時には、個人でお金を持って買い物して頂くようにしています。可能な方は購入された商品のレシートをノートへ添付や小遣帳に収支の計算をして頂くように支援を継続しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の自治会や他施設の行事に全員で参加したり、希望により気分転換を兼ねて、個人買物等の外出支援を継続しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員で話し合いの場を設け、行きたい場所への希望を聞いたり、個人外出ができるように支援を継続しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話の取次ぎや郵便を出す等の引率支援を継続しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に訪問していただけるように声かけやひまわり便り等で呼びかけており、気兼ねしない雰囲気作りを心がけ継続しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止等は学習会で繰り返し周知徹底に努めており継続しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望や不穏利用者の安全確保のために、その時の利用者の状態によりセンサーや防犯用具を使用し臨機応変に対処しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	物音による危険察知や細かい申し送りにて、安全、プライバシーに配慮した対応に努めており継続しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じてハサミを自己管理して頂いたり、刃物は危険のないよう保管場所を設置する等、安全面に配慮しながら対応出来る様に取り組んでおり継続しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを確認しながら再発防止に努め、会議や申し送り、地域の防災等に参加し、職員全員が理解出来る様に周知徹底、継続しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、その日の体調に配慮した摂取量や水分量を確保し記録しています。バランスのよい摂取に心がけていますが、必要により別メニューを用意する等、臨機応変に対応できるよう継続し努めています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前、排泄後やリビングへ出てこられた時、外出後は手洗いうがいの励行の声かけや誘導を各自意識を持って継続しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、夜勤者が布巾やまな板等除菌、消毒、冷蔵庫内の整理を徹底し、衛生に努めています。毎昼食と週2回の夕食は業者による食材メニューで、新鮮なものを使用するように継続しています。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはプランタの花や利用者の手作り表札をかけており、生活感を感じて頂けるよう工夫をしています。近隣の方にはいつでも訪問して頂けるような雰囲気作りを心がけるよう継続し努めています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅地のため不快な音は殆ど無く、光はロールブラインド等で調整等するようしており、安全面に配慮しながら快適に生活して頂けるよう努めています。玄関には季節の花を飾ったり、リビングには利用者の手作り作品等で四季を感じながら過ごして頂けるように工夫し継続しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて自由に活動出来る様に場所の提供をしており、気分転換や楽しみの場として利用出来る様に継続対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の居室で本人らしく生活が出来るよう、使い慣れた家具や置物等を設置して頂き、安全を考慮しながら居心地のよい安心感を与えられる居室になるように対処しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室訪室時、室温調整や換気に努めています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢や状態の不安定な方は、居室変更も検討し、安全、自立に向けたADLに配慮した対応に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の残存能力を引き出すように見守りや声かけ、役割を担うことで自信を得られるように対応しており、出来ないところを支援するようにしています。また、ホーム内の設備点検にて環境整備に努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	喫煙コーナーや予備室で団欒、ベランダでお茶でひとときを過ごして頂けるように継続しています。また、トマトやオクラ等の家庭菜園をされており水やり、収穫に参加して頂いています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①月1回ひまわり便りを地域住民宅（50件位）へ散歩を兼ね配布と地域パトロール、ゴミ拾い等ホームが出来る役割を継続しています。
- ②地域の方の協力を得て、老人会へも希望の利用者は参加させて頂き、本を読む会や月例会、日帰りバスツアー等にも楽しみや気分転換の支援をして頂いています。
- ③1名の利用者は、不定期に地域の青色パトロールに参加させて頂き、車に同乗し小学校まで外出を継続しています。